

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	北海道列支センター福祉会 家庭福祉相談室(保育所等訪問支援)		
○保護者評価実施期間	2024年12月2日		～ 2024年12月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14 家庭	(回答者数) 11 家庭
○従業者評価実施期間	2024年12月26日		～ 2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 名	(回答者数) 9 名
○訪問先施設評価実施期間	2024年10月1日		～ 2025年2月6日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	10 園	(回答者数) 9 園
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所等訪問支援事業が創設される前から、独自事業として近隣の幼稚園や保育園に訪問していたため、他機関連携の基盤がある。訪問先の園からの信頼が厚い。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児の成長を共有したり、先生たちの考え方や園の方針を支持し、園内でできる最適な支援方法を一緒に考えている。 ・園でできることと療育で出来ることの役割を確認し合い、具体的な支援方法を提案し検討してもらうようにしている。 ・園からの依頼があった場合、支援員が直接支援を行っている。 ・園の先生と直接の面談を基本としているが、園の業務多忙時には園側の負担を考慮し電話で話し合いを行うようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な園の保育方針について、支援員の知識を増やす。 ・利用児に合わせて適切な支援方法を提案できるように、支援員のスキルアップに努める。
2	児童発達支援の担当者が訪問し、利用児の普段の様子や特性に合わせた支援を提案・提供している。	<ul style="list-style-type: none"> ・療育時の様子を伝えて、利用児の発達段階について共通認識を持てるようにしている。 ・事前に保護者からの園生活で心配なことや、困りごとを聞き取っている。 ・希望があった場合、園の先生に療育場面を見学してもらうようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児への一貫した支援のために、園だけではなく、他事業所や関係機関等との連携を強化していく。
3	各学期毎(年3回)訪問を通して、定期的にモニタリングを行い、利用児にとって最適な支援を園と一緒に考えている。また、必要に応じて月5回まで訪問し、直接支援している。保護者の希望に応じて、入園・進級・入学時に引継ぎを行う。利用児の様子を直接園や学校伝えたり、文書を送付し切れ目ない支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援計画には、園での様子と先生と話した内容を詳細に記載している。 ・スムーズな地域生活が送れるように、留意点や療育場面で工夫していることを引継ぎ資料に記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を簡潔にまとめ、誰が見ても分かりやすい資料作りを工夫する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業対象者を主に児童発達支援事業利用児としている為、対象園が限られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援事業の利用児が減ってきている。 ・事業所が増え、利用者の選択肢が広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に連携していた園との関係を継続できるような工夫をする。 ・事業の強みを広くアピールし、他の事業所と差別化を図っていく。
2	園からの要請があっても、対象児と契約まで至らず、支援の提供につながらないケースがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・受給者証取得や利用契約にハードルを感じる保護者がいる。 ・対象児の園での困り感を保護者に理解してもらう事が難しく、利用に至らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用後の具体的な支援の流れを園や保護者に分かりやすく説明する。 ・独自事業として行っている出張相談の利用を提案していく。
3	園での様子と、家庭や療育での様子に違いがあり、困り感を共有できないケースが稀にある。また、支援員が訪問すること自体に抵抗を感じる園や保護者がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所等訪問支援事業について、理解を得られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の内容について理解を得られるよう、丁寧に説明していく。わかりやすい資料作りを工夫していく。